

第3期 澁川学区 まちづくり計画

令和7年度（2025年度）～令和11年度（2029年度）



令和7年4月
澁川学区まちづくり協議会

もくじ

1	はじめに	2
	(1) まちづくり協議会の位置づけ	
	(2) 計画改定の趣旨	
2	計画の概要	3
	(1) 計画の目的	
	(2) 計画の位置づけ	
	(3) 計画の範囲	
	(4) 計画の期間	
	(5) 市の主な計画との関係	
3	渋川学区の概要	5
	(1) 人口と世帯構造	
	(2) 文化・歴史	
	(3) 交通	
	(4) 主な公共施設・学校	
	(5) 生活に密着した施設	
4	地域の将来像	8
5	基本方針	8
	地域・安全・コミュニティ部会	
	健康福祉部会	
	子ども育成部会	
	教育・文化・スポーツ部会	
6	渋川学区まちづくり計画策定アンケート	17
7	地域まちづくり計画策定委員会	18

1 はじめに

(1) まちづくり協議会の位置づけ

渋川学区では、防災をはじめ防犯・環境・青少年の健全育成などに係る地域の課題を解決するため、「自分たちの地域は自分たちでつくる」という考えのもとで、その具体的な活動として平成24年12月2日に、15の町内会と 28 の各種団体等で構成する“渋川学区まちづくり協議会”を設立しました。

また、草津市協働のまちづくり条例に基づく「地域を代表する総合的な自治組織」として、平成26年8月1日に草津市から認定を受けました。

(2) 計画改定の趣旨

草津市協働のまちづくり条例に基づき、「渋川学区まちづくり計画」(以下「計画」という。)を策定し学区のまちづくりを計画的に進めています。令和6年度で第2期まちづくり計画の期間が満了することから、昨今の地域や私たちを取り巻く環境の変化、まちづくりの新たな課題などへの対応の必要性をふまえ、計画の見直しを実施します。

(参考) 草津市協働のまちづくり条例

第2条第3項「まちづくり協議会の定義」

基礎的コミュニティ等を中心とし、概ね小学校区(以下「区域」という。)を範囲として設置される区域を代表する総合的な自治組織であって、第11条第1項で認定されたものをいう。

第16条第1項「地域まちづくり計画の策定」

まちづくり協議会は、自分たちの住む区域を住み良いまちとするために、目指す将来像を掲げるとともに、それを実現するため解決すべき課題およびその解決方法を示した計画(以下「地域まちづくり計画」という。)を策定するものとする。

2 計画の概要

(1) 計画の目的

この計画は、渋川学区に暮らす私たち住民の一人ひとりがこのまちで暮らし続けるための将来像を共有し、その理想と目標の達成に向けて、地域資源や特色を活かしながら地域課題を解決し、あるいは地域の魅力をさらに輝かせていくために策定するものです。

(2) 計画の位置づけ

まちづくり協議会ではこの計画に示す学区まちづくりの方向性や目指す将来像を地域住民の皆さんと共有しながら、その実現に向けて計画的に地域の経営と運営を行っていくため、計画の策定に際しては地域住民の合意形成を十分に図り、策定後も広くこれを公表するものとします。

また、まちづくり協議会が年度ごとに策定する事業計画は、この計画に基づくものとします。

(3) 計画の範囲

この計画は、地域にとって身近な生活圏である渋川小学校区を対象エリアとし、まちづくり協議会を構成する15町内会、各種団体・個人・企業等が、その課題解決に向けて主体的に取り組むことができる範囲とします。

(4) 計画の期間

この計画の期間は、令和7年度(2025 年度)から令和11年度(2029 年度)までの5年間とします。ただし、計画の期間中であっても地域を取り巻く環境や社会情勢の変化などにより見直しの必要性が生じた場合は、柔軟に対応します。

計画名称		計画の期間		備考
第1期	当初	平成 26 年度	～ 平成 30 年度	5 年計画
	延長	平成 31(令和元)年度		1 年間の延長
第 2 期	当初	令和 2 年度	～ 令和 6 年度	5 年計画
	改訂	令和 4 年度	～ 令和 6 年度	事業計画の見直し
★本計画	第 3 期	令和 7 年度	～ 令和 11 年度	5 年計画

(5) 市の主な計画との関係

この計画は渋川学区における地域まちづくりの最上位に位置する計画として策定しています。

また、草津市における「総合計画」や「協働のまちづくり推進計画」をはじめとする各種計画や草津市社会福祉協議会にて策定されている「地域福祉活動計画」など、地域に関わる計画とも整合性を保てるよう考慮しながら取り組んでいけるように策定しています。

3 渋川学区の概要

(1)人口と世帯構造

渋川学区は草津市の玄関口となるJR草津駅があり、その周辺には大型小売店舗や高層マンション等が多数立地するなど、中心市街地の一角を形成する地域です。

人口 9,647 人※、世帯数 4,622 世帯を有し、高齢化率は 18.57%で草津市全体の 22.45%を下回り、15～64 歳までの生産年齢人口は 67.80%と高く、若くて活気あふれるまちです。

しかしながら、5 年前(令和元年 6 月末)との比較では人口の微減(45 人減、▲0.46%)に対し、世帯数が大幅に増えており(287 世帯増、+6.6%)、一人暮らしの高齢者の増加や少子化、核家族化の進行が懸念されます。

また、共働き世帯の増加などに伴い、コミュニティの大切さが今後ますます、クローズアップされる状況です。

(2)文化・歴史

南西から北東へと旧中山道が貫く渋川は、古くから交通の要衝として栄えました。街道(旧中山道)沿いには昔から4つのお寺があり、現在も行圓寺・佛乗寺・光明寺が残っています。中でも鎌倉時代に創建された光明寺は渋川で最も大きな寺で、「渋川御坊」と呼ばれました。親鸞聖人が都に上る際に立ち寄られたこと、蓮如上人がたびたび寄られた寺としての由緒があります。

また、旧中山道と伊佐々川が交わる場所には伊砂砂神社が鎮座します。神社の名前の由来はご祭神名に因み、明治 2 年(1869)に改称されたといわれます。本殿は応仁 2 年(1468)に建立され、大正 11 年(1922)に国の重要文化財に指定されました。毎年 9 月 13 日の燈明祭には雨乞いのお礼として、夜に「渋川花踊り」が奉納されます。室町時代に始まった風流踊の流れをくむ太鼓踊りは音頭取り・太鼓打ち・踊り子などが口伝の歌を歌い、飛び上りながら境内を輪になって踊ります。「花踊り保存会」の指導で夏休みに踊りを練習した渋川小学校の児童も毎年参加しています。

※ 人口、世帯数、高齢化率は令和 6 年 6 月末時点「草津市学区別・地区別年齢別男女別人口一覧表」より

(住民基本台帳人口・外国人含む)

(3) 交通

草津駅を南端に北へと広がる渋川学区は大半が草津駅への徒歩圏内にあります。また、学区内を「草津・栗東・守山くるっとバス」が平日には往路・復路とも 5 便運行しており、駅からの利便性がフォローされています。

車の交通量は学区内に大型ショッピングセンター「エスクエア」があること、草津駅周辺の開発や大学跡地の住宅開発に伴って交通量の増加が著しく、学区に隣接する地域には草津警察署が移転され、草津市立プール(インフロニア草津アクアティクスセンター)が新設されるなど、学区西側の大江霊仙寺線の交通量は今後ますます増加すると考えられます。

(4) 主な公共施設・学校

渋川学区内には草津郵便局の本局があります。元は渋川でなく、現在の草津 3 丁目あたりにあった日本の近代郵便制度の創始者である前島密の片腕だった山内家があった場所と言われています。

郵便局から北へ渋川小学校の方面へと歩くと、大きくカーブする道の角に石碑があります。昭和 25 年(1950)に草津の農業試験場ができたことや滋賀県立農業短期大学が開学したことが刻まれています。昭和 31 年(1956)には県立短期大学農業科となり、40 年(1965)には農業総合展示会が開かれました。しかしながら、農業の移り変わりとともに平成 8 年に閉校、40 年の歴史に幕が閉じられました。

この県立短期大学農業科のグラウンドを借りて昭和 53 年(1978)に開校したのが、滋賀県立草津東高等学校です。文武両道を目指す教育で近年ではオリンピックのメダリストを輩出し、各種々目の全国大会の常連校ともなっています。吹奏楽部には、ふれあいまつりを始めとするまちづくり協議会の事業に毎年、協力いただいています。

また、学区内には綾羽高等学校もあり、3 つの課程と全 7 つのコースから選択できる特色ある教育が目指されています。製菓コースには、子どもたちにお菓子づくりの楽しさを体験してもらう事業で協力をいただいています。

(5)生活に密着した施設

渋川学区内には、いつも買い物客であふれる大型ショッピングセンター「エيسクエア」があります。この場所は戦前、競馬場でした。昭和 6 年(1931)に開設された関西初の公営競馬場である草津競馬場です。

一周およそ 1km、2 万人収容できるという競馬場では、詰めかける競馬ファンのため臨時列車が増発される人気だったようです。人気を博した草津競馬も戦争の激しさが増すにつれ寂れてしまい、昭和 23 年に幕を閉じます。残った跡地は綾羽工業草津工場、そして現在のエイスクエアと大きく様変わりしています。

現在は、衣食住の生活必需品はもとより、生活を彩るさまざまな品物まで幅広い商品が販売され、ワンストップショッピングを実現することで、年々賑わいを増しています。



4 地域の将来像

渋川学区の目指すまちの将来像をスローガン(キャッチフレーズ)として定め、それを具体的に展開するためのまちづくりの基本方針を掲げます。

めざす 将来像	笑顔・ふれあい・思いやりのまち・渋川
------------	--------------------

5 基本方針

上記の将来像を実現するため、まちづくり協議会の4つの部会でそれぞれ基本方針を掲げ、各部会とまちづくりセンター事務局が主体となり、また学区の各種団体と連携協力しながら、学区の特徴や現状の課題をふまえた様々な事業を展開していきます。

【基本方針】

地域・安全・ コミュニティ部会	つながることで安心を得るまち・渋川
健康福祉部会	健康で安心して暮らしつづけられるまち・渋川
子ども育成部会	子ども親もみんなで育つまち・渋川
教育・文化・ スポーツ部会	学び合い 高め合い 未来へつなぐまち・渋川

つながることで安心を得るまち ・ 渋川

交流イベントの効果的な開催などを通じて、住民の皆さんが顔見知りとなるつながりづくりが大切です。また、次世代の担い手となる若い世代が活動に参加し活躍する機会を増やします。部会運営のアップデートを行い、つながりづくりから地域の安心安全力を高めます。

1

地域住民が一堂に会する交流や学べる機会

- ・住民同士が顔見知りとなるつながりづくりの機会をつくれます。
- ・事業運営の負担感を減らす工夫で、参加者も運営側も楽しめる内容へと進化させていきます。

ふれあい 推進事業	ふれあいまつり	実施担当 各町内会 各種団体
	まちづくり研修 (研修会や視察、意見交換など)	
※ふれあいまつりはイベントのより効果的な実施と部会の負担軽減を目的に、企画運営の方法や実施体制についてアップデートしていきます。		



2

担い手の高齢化と次世代の担い手

- ・若い世代がより参加しやすい機会づくりの充実を図り、まちづくりの担い手を増やします。
- ・若い世代による事業の企画運営を応援し、新しい取り組みの具体化を後押ししていきます。

まちづくりの 担い手・加入促進	渋川なんでもやる会(渋やる会)の運営	実施担当 学区住民の有志 各部会の有志 各種団体の有志 学生団体　など
	小中高校生対象の研修・講座	
	親子参加型の防災イベント	
	大学生など外部講師と連携した体験型講座	
	他部会が取り組む事業への協力・連携	
※「渋川なんでもやる会」を他部会とのコラボレーション事業企画ができるチームとしていくことを検討します。		

3

各町内会の事情に応じた環境美化活動の推進

- ・高齢化など各町内会の事情に応じた緑化・美化・ゴミ出しなどの問題に対して持続可能な対策について検討します。

環境美化 活動	一斉河川清掃(側溝等)	実施担当 各町内会
	花いっぱい運動	
	散在性ごみ一斉清掃	
	不法投棄の監視活動	
	清掃ボランティア活動	

犯罪や災害のリスクに対して

- ・高まる防犯・防災への意識に応えられる防犯防災対策事業を企画検討していきます。また、地域安全に関わる関係団体との連携を密にし、共に考える場をつくるなど解決につながる体制づくりを進めます。

防犯・防災・安全	交通安全啓発活動	実施担当 各町内会 渋川小学校 渋川小学校 PTA 防災委員会
	地域安全啓発活動の支援	
	児童下校見守り隊の支援	
	防犯カメラの維持管理	
	地域防犯・防災に関する啓発活動	
	地区防災計画に関する活動	

※防災に関する事業は、防災委員会が立ち上がり次第移管予定



健康で安心して暮らしつつげられるまち ・ 渋川

高齢になっても孤立せず、孤独で不安にならない、心身ともに健康で自分らしく暮らし続けることができる地域づくりに取り組みます。

1 独居高齢者や高齢者世帯の増加

・敬老会事業などを通じて近所での高齢者同士の交流を深め、顔見知りの関係を増やし、高齢者宅を訪問して安否確認等を行います。

敬老会事業	敬老会事業の開催	実施担当 各町内会
	敬老会対象者宅への訪問	
ふれあいサロン	学区社協ふれあいサロンの開催 (独居の高齢者対象)	実施担当 渋川学区社会福祉協議会

2 高齢独居世帯 ・ 高齢者のみ世帯の見守り

・独居の高齢者や高齢者のみ世帯などの日常の安否確認や困っている人を必要な施策につなげます。

高齢者見守り活動	実施担当 渋川学区民生委員・児童委員協議会
----------	--------------------------

3

自身や家族の介護

・健康増進を図りながら、介護予防につながる心身の健康促進や将来的な不安の解消に向けて取り組みます。

健康福祉事業	健康増進事業 (心・身体健康維持事業)	実施担当 健康福祉部会
	相談先の案内	
健康的な食事の推進	料理教室の開催	実施担当 草津市健康推進員連絡協議会 渋川学区

4

身近な場所での社会的なつながり

・高齢者の健康福祉を支えるための身近な居場所づくり

地域サロンの開催	実施担当 渋川学区社会福祉協議会
老人クラブの活動(グラウンドゴルフ、カラオケ、誕生日会など)	実施担当 各老人クラブ
まちづくりサポーターの募集	実施担当 健康福祉部会
福祉グッズの貸し出し(福祉活動団体の運営支援)	
地域福祉活動の担い手育成	実施担当 全ての福祉活動団体



子ども親もみんなで育つまち・渋川

子どもと大人、子ども同士、親同士の絆を深めながら子どもたちの成長を地域全体で支えます。

1

子どもと大人の交流機会

・子どもと大人、子ども同士、親同士の交流や助け合いの気持ちを育むと共に、渋川の文化や自然に触れ、愛着と誇りを育てる機会をつくります。

地域協働合校事業	多様なコミュニティの人たちが集う交流事業	委託先 わんぱくプラザ渋川っ子実行委員会 協力先 渋川小学校 PTA 関連先 渋川学区更生保護女性会
	子どもの体験事業 など	

2

子どもが安心安全に過ごせる居場所

・子どもと大人の対面交流の機会を増やし、子どもたちが安全に安心して過ごせる場を提供します。

青少年健全育成事業	子どもが安全に過ごせるまちづくり	愛の声かけパトロール あいさつ啓発運動	連携先 草津市少年補導委員会 渋川学区
	安心安全な居場所づくり など		



学び合い 高め合い 未来へつなぐまち ・ 渋川

地域まちづくりの基本となる人権、健康増進、地域の歴史文化などについてこれまで培われてきた歴史を知り、アップデートしながら未来につなぎます。

1

人権意識の向上と知識のアップデート

・人権に関する基本知識を繰り返し学び、差別や偏見のない誰もが互いに尊重し合い、幸せな生活をおくることができる社会が実現できるよう知識と意識をアップデートし続けます。

人権学習 人権研修	第3講座 (町内学習懇談会の推進者研修講座)※学区	連携先 各町内会
	第4講座 (町内学習懇談会の打合せ会議)※町内会ごと	
	町内学習懇談会 (町内会ごとの人権学習懇談会)	
	実践発表のつどい (町内学習懇談会の成果・課題の総括学習会)	
	人権(現地)研修(講師を招いての人権研修または現地研修)	
※各事業間の組合せを検討しながら効率化をはかります。		

2

スポーツで健康だけでなく、いざという時の関係づくり

- ・健康の維持増進をはかるとともに、地域スポーツを通じた交流を促すことで災害時などにお互いに助け合える有機的な関係を構築します。

体育振興 事業	大運動会	連携先 渋川スポーツ振興会
	スポーツ大会	

※年度ごとに内容を検討。
高齢化や現代の家族構成・ライフスタイルに合った事業へとアップデートしていきます。(競技種目、対象年齢、個人またはチーム競技、町内対抗・非対抗など)

3

渋川の歴史文化の伝承と創造

- ・先人が築いてきた渋川の歴史・文化・魅力を伝承し、未来を担う子どもたちにつないでいきます。

文化事業	花踊り練習会 (学区民への認知度の向上と後継者の育成)	連携先 渋川花踊り保存会
	渋川の歌活用啓発 (まち協イベントや町内会への活用啓発)	連携先 他部会・各町内会



6 渋川学区まちづくり計画策定アンケート

このアンケート調査は、まちづくり計画の改定にあたり、学区にお住まいの皆さんや日ごろまちづくり協議会に関わってくださっている皆さんに、まちづくりセンターや協議会運営についてのご意見や実施事業などについてのご意見を伺い、計画検討の一助とさせていただくことを目的に実施したものです。

アンケートは市広報配布に合わせて令和 6 年 9 月に実施し、計 135 名の方より回答をいただきました。

<主な調査項目>

- 渋川学区で「気に入っている」「誇りに思う」こと
- まちづくり協議会の事業で「知っている事業」「大切だと思う事業」
- 渋川での暮らしの中で、「気になる」「不安に感じる」こと

■調査結果（抜粋）

○渋川学区で「気に入っている」「誇りに思う」こと

「買い物や生活が便利(117 件)」「駅から近く公共交通が便利(111 件)」が多く、これらに次いで「良好な住環境(70 件)」「商業施設が多い(68 件)」「水害など災害リスクが低い(59 件)」を選択する方が多い結果となりました。

○協議会の事業で「知っている事業」「大切だと思う事業」

知っている事業では「ふれあいまつり(114 件)」「敬老会(96 件)」「着ぐるみ「しぶはなちゃん」(92 件)」「体育振興事業(84 件)」「環境美化事業(82 件)」が多く、「大切だと思う事業」では、「地区防災計画(64 件)」「防犯事業(54 件)」「環境美化事業(46 件)」「ふれあいまつり(39 件)」が多くなっています。

○渋川のまちの暮らしの中で気になる・不安に感じること

暮らしの課題となる事項(5テーマ・選択方式)では、「災害に備えるための知識や準備(94 件)」が最も多く、次いで「自分や家族の健康や将来の介護問題(89 件)」「子どもが安心・安全に過ごせる居場所(82 件)」「地域清掃など町内会・地域活動(71 件)」が多くなっています。

アンケート結果の詳細は
協議会 HP にて公開しています



7 地域まちづくり計画策定委員会

■名称 第3期 地域まちづくり計画策定委員会

■目的 まちづくり協議会の目指す学区の将来像を定め、その実現のために解決しなければならない課題を抽出し、課題の解決と将来像の実現に向けた取組み計画を策定します。

■構成

委員長	若月義信	渋川学区まちづくり協議会 会長
副委員長	吉田幸信	渋川学区まちづくり協議会 副会長
	寺田 充	渋川学区まちづくり協議会 副会長
委員	村田高三	渋川学区まちづくり協議会 会計
	大下和己	渋川学区まちづくり協議会 監事
	田中英明	地域安全コミュニティ部会員
	小西拓人	地域安全コミュニティ部会員
	片岡 稔	健康福祉部会 副部会長
	太田英二	健康福祉部会員 渋川学区民児協会会長
	安藤 亘	子ども育成部会員
	中村奈々花	子ども育成部会員
	西川泰功	教育文化スポーツ部会 部会長
	水野博之	教育文化スポーツ部会 副部会長
事務局	小橋之彦	渋川学区まちづくり協議会 事務局長
中間支援 組織	茶木修一	(公財)草津市コミュニティ事業団
	栗田真理子	(公財)草津市コミュニティ事業団

■経過

7～1月 地域まちづくり計画策定委員会 7回開催

9月 まちづくりアンケート

町内会全戸配布
(用紙/フォームでの回答)



第 3 期 渋川学区まちづくり計画
令和 7 年度(2025 年度)-令和 11 年(2029 年度)

渋川学区まちづくり協議会
〒525-0025
滋賀県草津市西渋川二丁目 9 番 38 号
TEL:077-569-0350
FAX:077-566-5143
HP <https://www.machikyou.jp/shibukawa/>



渋川学区まちづくり計画策定に向けてのアンケート

実施時期:令和6(2024)年9月

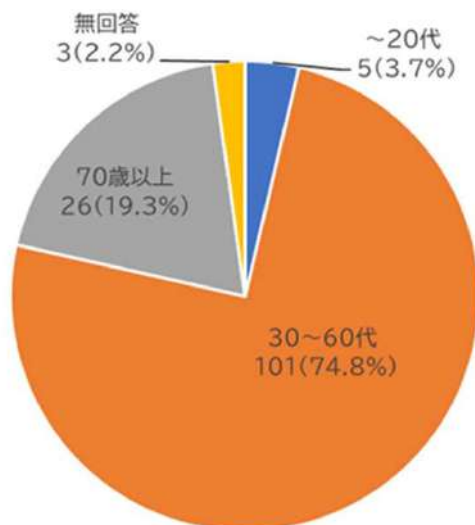
実施方法:Webフォームおよび紙アンケート／回答数135件[web94件・紙アンケート41件]

実施:渋川学区まちづくり協議会

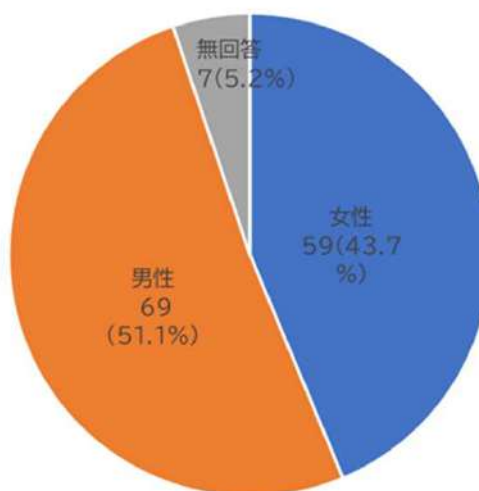
集計:公益財団法人草津市コミュニティ事業団

I,あなたご自身についておたずねします

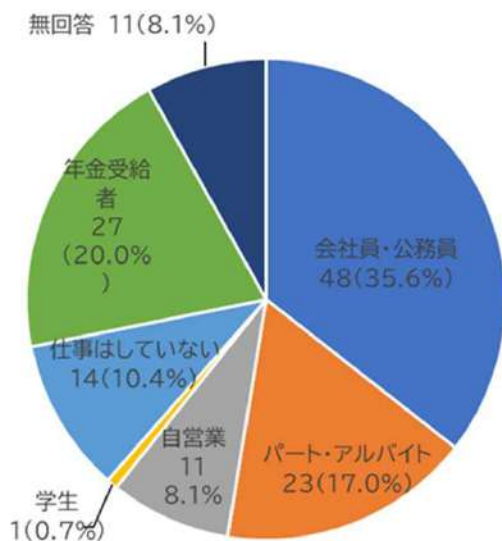
問1 あなたの年齢



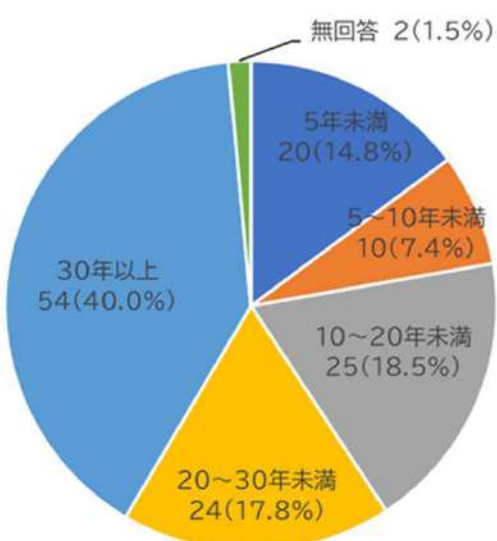
問2 あなたの性別



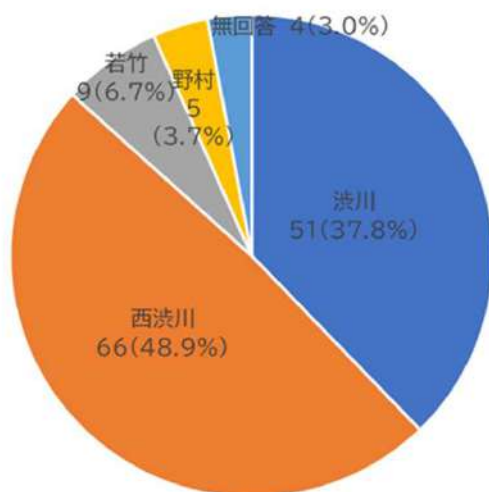
問3 あなたの職業



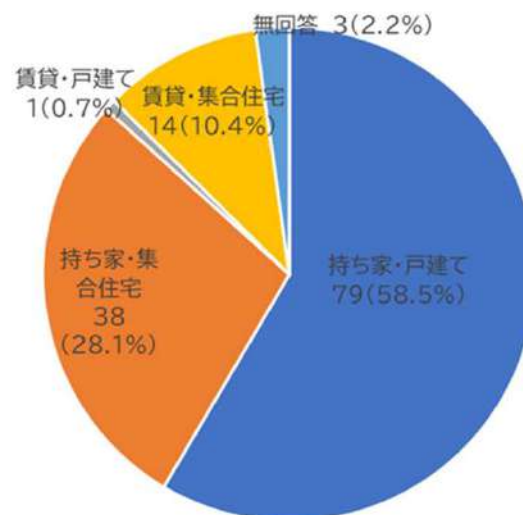
問4 渋川に住んで何年目ですか



問5 お住まいの地域

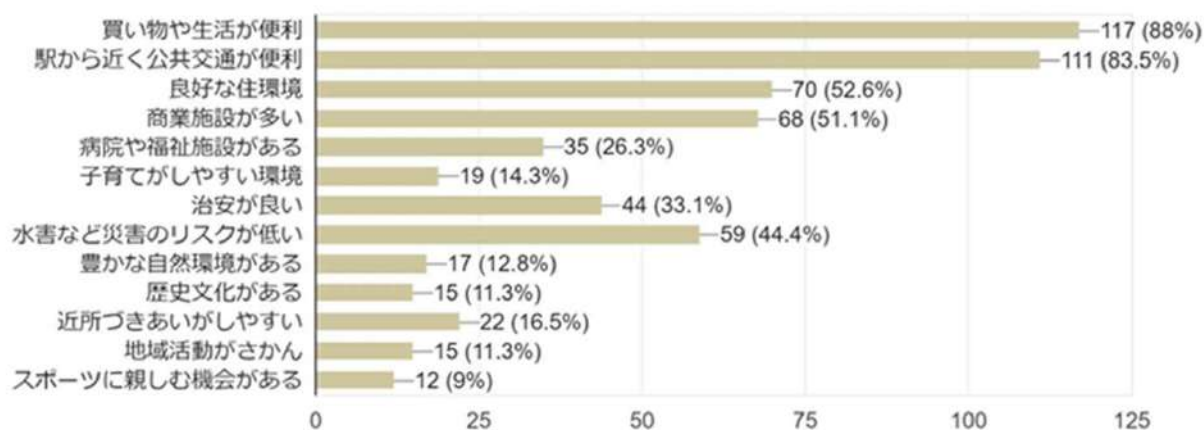


問6 あなたのお住まいは次のどれにあたりますか



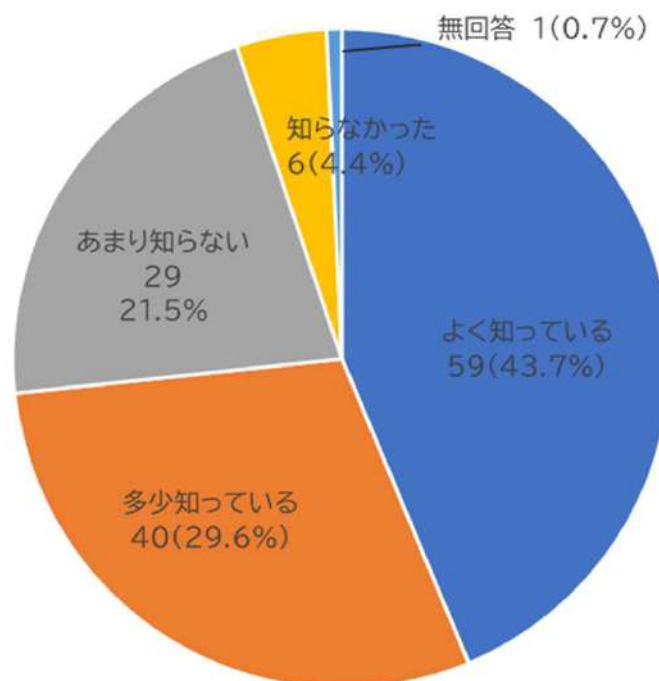
問7 あなたが浜川学区で気に入っているものや、誇ることができるものは何ですか

133 件の回答



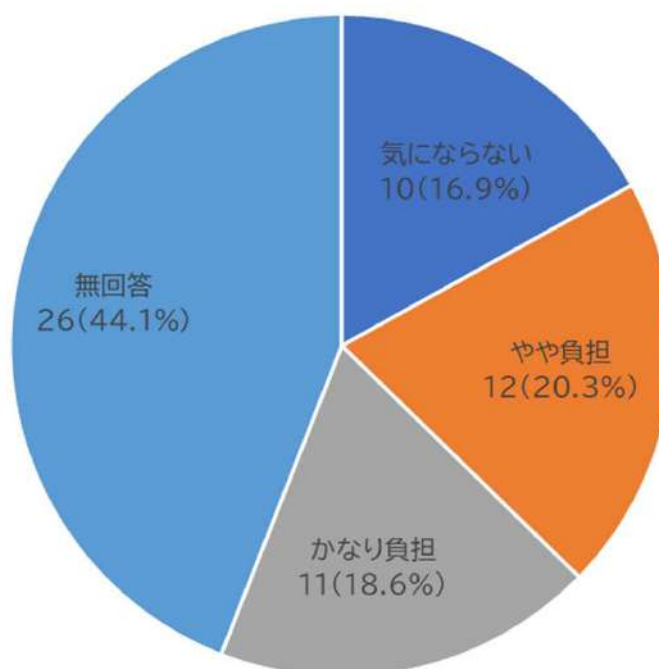
Ⅱ, まちづくり協議会についておたずねします

問8 渋川まちづくり協議会を知っていますか



※上の【問8】で「よく知っている」を選択した方(59件／名)におたずねします

問9 協議会の事業や運営に関わることに、精神的・時間的な負担感をお答えください



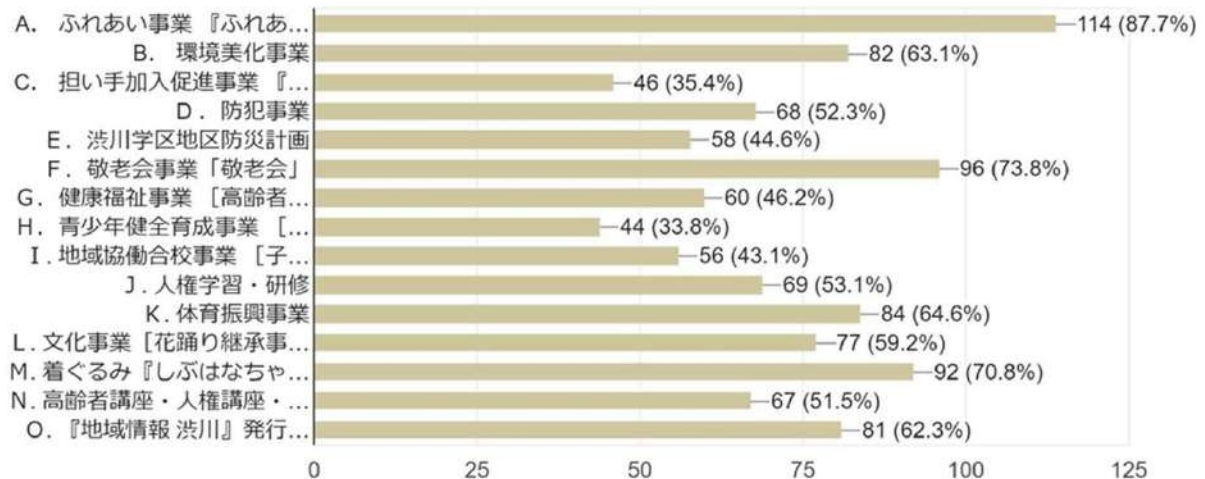
Ⅲ, 協議会が実施する事業について

問10 協議会が実施する事業について「知っている事業」「大切と思う事業」を3つまで選択してください

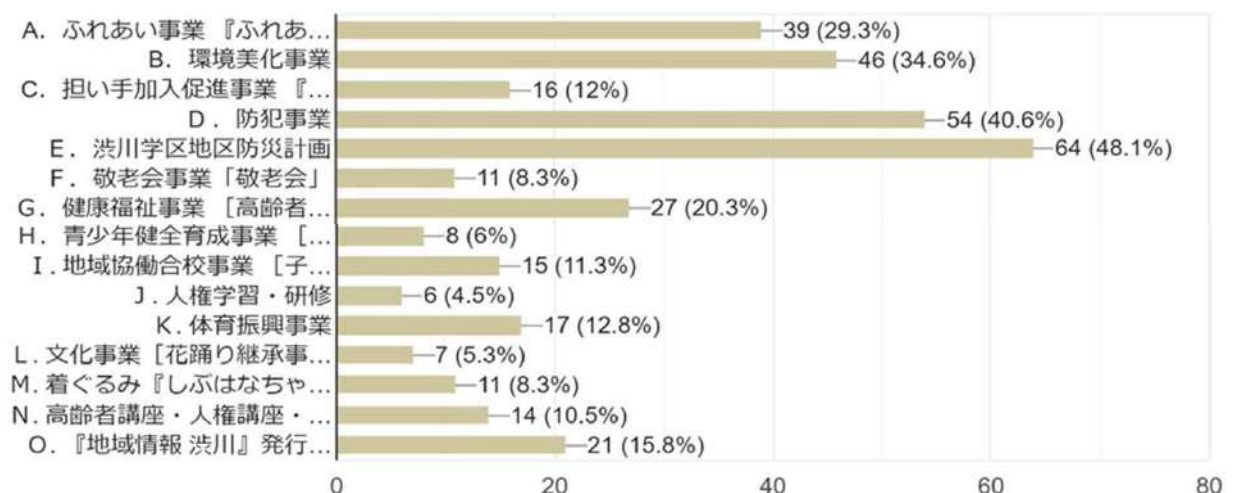
渋川学区まちづくり協議会 主な事業

分野	事業名	事業内容
地域安全 コミュニティ	A. ふれあい事業『ふれあいまつり』	
	B. 環境美化事業	河川一斉清掃・散在性ごみ一斉清掃・不法投棄監視活動・花いっぱい運動 等
	C. 担い手加入促進事業『渋川なんでもやる会』	事業企画と運営など、得意分野を活かして担い手の掘り起こしを図る事業 綾羽高校お菓子づくり体験、走り方教室・バスケ教室&光る文字体験 等
	D. 防犯事業	防犯カメラ設置・地域安全啓発活動(見守り隊支援)
防災	E. 渋川学区地区防災計画	2023年3月策定 防災減災対策・災害情報連絡ネットワーク構築・防災訓練
健康福祉	F. 敬老会事業「敬老会」	70歳以上が対象・各町内会にて開催
	G. 健康福祉事業	高齢者の居場所づくり・交流事業 健康体操教室・ミニコンサート・渋川歩こう会・絵手紙教室・福祉グッズ貸出事業・まちづくりサポーター募集 等
子ども育成	H. 青少年健全育成事業	青少年の健全な育成を目指す事業 野菜を使ってブーケ作り・エイスクエアで見守り活動 あいさつ運動作品募集(標語&ぬり絵) 等
	I. 地域協働合校事業	子ども・大人が世代を越え協力し活動する事業 じゃがいも収穫・お天気講座・花植え 等
教育文化 スポーツ	J. 人権学習・研修	「第3・第4統合講座」・人権現地研修・人権実践発表の集い
	K. 体育振興事業	球技大会・ニュースポーツ体験・大運動会
	L. 文化事業	花踊り継承事業・渋川の歌活用促進
しぶはなちゃん 企画委員会	M. 着ぐるみ『しぶはなちゃん』の出動	
まちづくり センター事業	N. 高齢者講座・人権講座・食育講座・歴史講座・会議室の貸室・草津市指定ごみ袋等取扱 等	
広報	O. 『地域情報 渋川』発行・ホームページ運用・各種チラシ設置 等	

問10-① 協議会の以下の事業で「知っている」も...あてはまると思うものすべてに☑をつけてください
130 件の回答



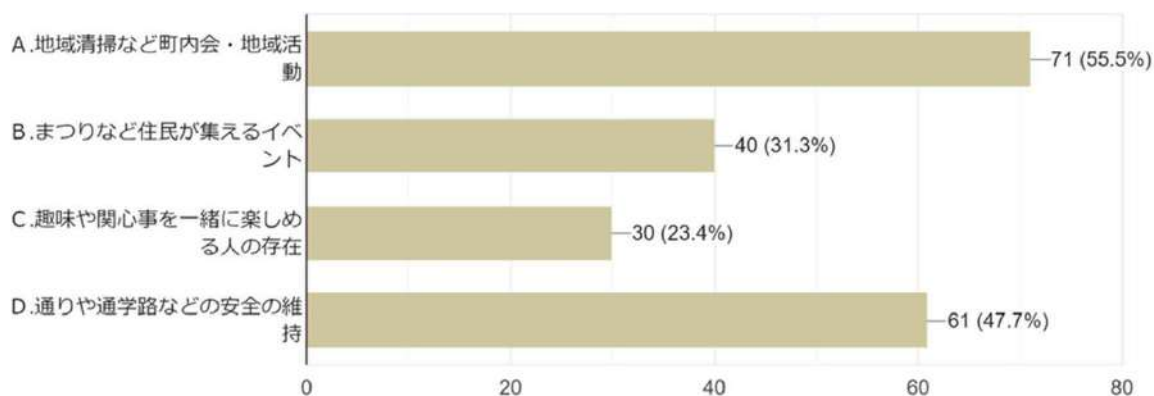
問10-② 協議会の事業のうち、特に「大切と思う」事業を【3つまで】選択してください
133 件の回答



IV, 渋川のまちで暮らす上で感じる「気になる」「不安に感じる」ことについて

(1)地域・安全・コミュニティ 【2つまで】 選択☑をつけてください

128 件の回答



(1)で特に「気になる」「不安」なこと (58名回答/コメント要旨)

■Aを選択/コメント要旨

【担い手についての心配(高齢化・不足)】

- ・少子高齢化
- ・役員、担い手の高齢化
- ・担い手の負担が大きいこと

【活動の縮小化や、交流機会の減少】

- ・数年前に比べると清掃活動などが減り近隣の方の顔を合わせる場面が減った
- ・地域活動の不参加率
- ・掃除やイベントに出づらい人、地域の人と顔を合わせる機会が少ない人が増えてきている
- ・マンションでご近所とのお付き合いが減り、高齢者がいてもわからず助かる仕組みがない
- ・地域・町内会・コミュニケーションの希薄化
- ・町内会活動の低下

【活動上の負担感】

- ・川掃除の負担
- ・暑さのためかすぐに雑草が生えてくるのでかなり負担に感じる
- ・町内会の活動で、特定の人に負担が集中する
- ・町内会の行事の参加がしんどい
- ・一部の人に役が偏っている
- ・ひとり親になり、子供もまだ幼く町内会活動に賛同はしても参加する事に負担を感じる
- ・年齢とともに参加が厳しく、季節特に夏は負担を感じる

【町内会加入率の減少】

- ・高齢者所帯とマンション移住者の町内会未加入
- ・町内会からの脱退
- ・集合住宅住民の町内会参加、町内会加入率の維持
- ・町内会に入りたいと思う起爆剤が必要

【その他／コミュニティ全般に関する事項】

- ・町内会未加入のアパートが、指定ごみ袋でない袋でごみを出し、集積所に粗大ごみを出す
- ・古い価値観で不満を言う人、各家庭の事情に配慮せず一律の価値観を押し付ける人がいる
- ・町内会加入や役員に関する説明が難しい
- ・町内会加入してるが未加入の選択肢がほしい
- ・町内会の仕事が非効率でムダが多い
- ・地域単位のイベントの大切さ
- ・地域活動の目的があいまいだ

■Dを選択／コメント要旨

【通学路の安全】

- ・子どもの急な飛び出しが多く、大人もいるが子どもを安全に横断させることができていない
- ・就労する親は立哨当番が負担 児童も減っており下校時は地域で見守ってほしい
- ・小学生をグリーンベルトのない路肩を歩かせており危険

【道路環境に関する課題】

- ・歩道や自転車道が分離されていない
- ・一方通行の逆走違反の取締りの不十分
- ・道がせまく、交通量が多く渋滞時が危険
- ・車道と歩道の境が目立たず、車が歩道に乗り上げてきそうとすることがよくある
- ・足腰が悪くなる道路状態が特に気になります
- ・渋川通り路側帯の白線を引いてほしい

■Bを選択／コメント要旨

【地域イベントと担い手の課題】

- ・運動会は地区関係なく運動会参加したい人でチーム分けなどするのがよい
- ・いつまでも続いてほしいが、皆さん高齢で子育てしながら自分もどこまでできるか不安
- ・担い手が高齢化している
- ・高齢者層が増える状況での対策
- ・町内単位でのイベントを増やす
- ・関係者のみ盛り上がりすぎ

【町内会への意識の変化】

- ・地域活動を報酬型の仕事にして、活動を活発にする必要がある
- ・高齢者所帯とマンション移住者が増えたことによる町内会離れ
- ・高齢化と、転入者、若い世代の町内会未加入の増加
- ・町内会からの脱退

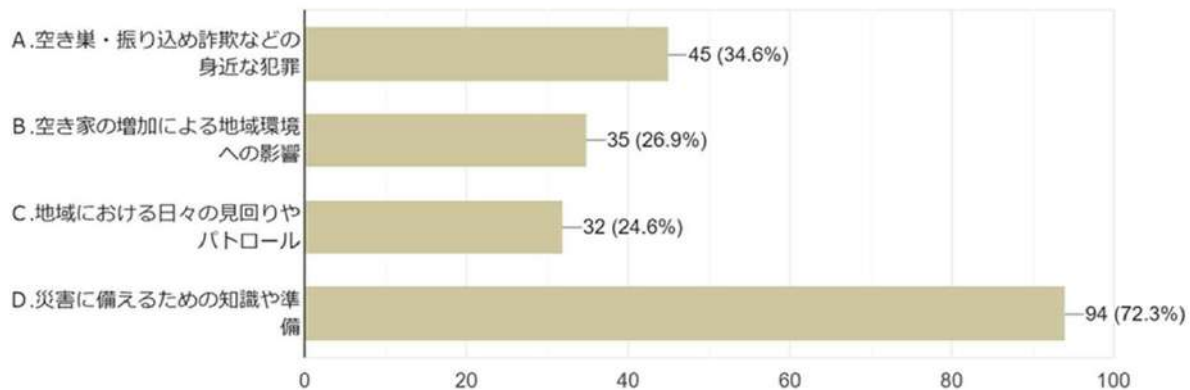
■Cを選択／コメント要旨

【地域交流機会の不足】

- ・近所付き合いが少なく、一緒に楽しむ仲間ができづらい
- ・参加しやすい活動を
- ・月1度くらいみんなが集まれるもの
- ・迷惑老人の集まりにならないか
- ・町会館などの開放を

(2)防犯・防災 【2つまで】選択☑をつけてください

130 件の回答



(2)で特に「気になる」「不安」なこと (32名回答/コメント要旨)

■Dを選択/コメント要旨

【災害への不安と防災対策の必要性】

- ・浸水地区に住んでいるため、大雨時の浸水対応が不安
- ・災害が自分には関係ないと感じてしまう無関心さに不安を覚える
- ・地震や大規模災害時に自分がどこまで対応すべきか分からない
- ・災害の備えとして、助けを求めるホイッスルや非常食の用意を認識しておくべき

【地域防災力の向上と助け合いの仕組みづくり】

- ・消防訓練の参加率向上や学区全体での訓練実施を通じ、防災意識を高める必要がある
- ・子どもや高齢者を含む地域全体で助け合える体制を整えることが大事
- ・町内役員の知識向上や情報発信の充実により、住民の統率力を高めること
- ・道路寸断時の避難場所の明確化や、実務的な防災スキルの強化が必要

■Aを選択/コメント要旨

- ・空き家から居住者の変更があった際、怪しい人なのか区別がつかないこと
- ・近隣の方との交流が少なく、何が起これいても気づきにくい
- ・特殊詐欺が増えていることへの心配

■Bを選択/コメント要旨

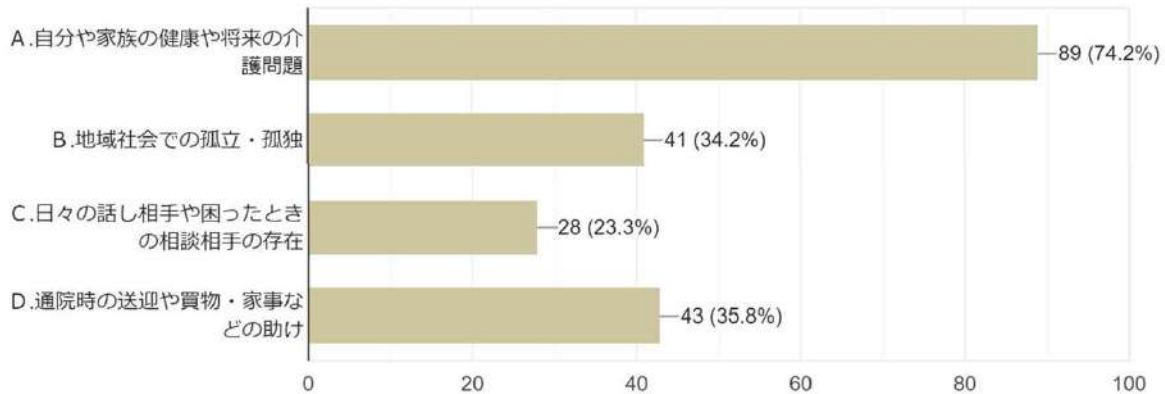
- ・空き家の把握や見守り対策
- ・台風などでの空き家の管理がどうなっているか
- ・空き家が多く、放置されていることについて行政の積極的関与を期待する

■Cを選択/コメント要旨

- ・状況の把握方法と、体制づくりをどうするか
- ・見回りやパトロールを報酬型の業務にするべきではないか
- ・防犯カメラを無料で設置する制度を活用し増やすべき
- ・見通しの悪い交差点にミラーが無い、または角度が悪い場所がある
- ・洗濯王草津店前の通学路・が危険なためガードレール設置を希望する
- ・見守り活動は必要だが負担が大きい

(3)健康・福祉 【2つまで】選択☑をつけてください

120 件の回答



(3)で特に「気になる」「不安」なこと(58名回答／コメント要旨)

■Aを選択／コメント要旨

- ・ひとり暮らしであり、動けなくなったときに生活面をどうするか
- ・自身、配偶者の介護について
- ・老夫婦の二人暮らしで、今後への不安ある
- ・高齢者の一人住まいへの声かけ
- ・夏場の気温上昇に伴う健康被害や運動不足
- ・介護にかかる費用など、経済的な面が心配
- ・交際範囲、行動範囲の縮小
- ・国、県の支援が子育て関連に厚く、高齢者、弱者、介護への援助がほしい

■Dを選択／コメント要旨

- ・高齢者の一人暮らしが増えているため
- ・総合病院が近くにないこと
- ・買い物や家事などの助けは、高齢者だけでなく、子育て支援にも関わると思う
- ・腰が悪くなると銀行までの距離が遠く感じる
- ・市へ相談するといまひとつ期待できない
- ・身近な見守りや日々の声かけ
- ・今は家族と暮らしていても将来一人暮らしになった場合はどうすれば良いか判断が難しい

■Bを選択／コメント要旨

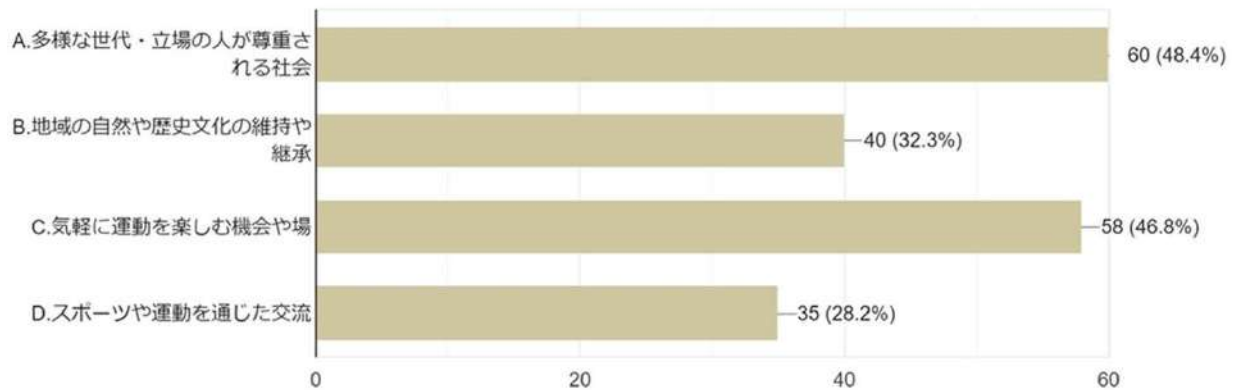
- ・一人暮らしになった時の居場所を知りたい
- ・見守り体制の構築
- ・高齢者層が増える状況での対策
- ・共に過ごすお年寄りが孤立・孤独にならない施策
- ・今後ますます増える
- ・高齢化が進む中、高齢者の居場所を作りをしてほしい

■Cを選択／コメント要旨

- ・独居老人の場合自分で介護の依頼ができない
- ・特に高齢者は体調面や周りの人が夏の熱中症に気をつけてあげないといけない
- ・バスの便が悪く病院や買い物に行くのが不便で車の免許を返納後の生活が不安

(4)人権・文化・スポーツ 【2つまで】 選択図をつけてください

124 件の回答



(4)で特に「気になる」「不安」コメント(22名回答/コメント要旨)

■Dを選択/コメント要旨

- ・町内の交流が少ない
- ・運動教室の機会が不足している
- ・野球などのスポーツイベントで、人数が足りない場合の参加催促は控えてほしい
- ・大運動会の選手集めが難しい。半日開催や町内対抗廃止で参加しやすい工夫が必要
- ・高齢者も気軽に参加できる活動を増やしてほしい
- ・草津のプールにレジャー要素がなく、残念
- ・町内会館やグラウンドゴルフの利用について改善希望
- ・スポーツ活動を通じて異世代間交流を増やしたい
- ・小さな公園で未就学児がボール遊びできないので芝生の公園が欲しい。

■Aを選択/コメント要旨

- ・資格を持つ人の把握と、人との交流減少の関連
- ・同和を含む人権研修への抵抗と、人権問題への関心の違い
- ・他者の意見を聞くことの重要性
- ・車不要のウォーカブルな街づくりを希望
- ・高齢者も参加できる子ども食堂の設置を提案

■Bを選択/コメント要旨

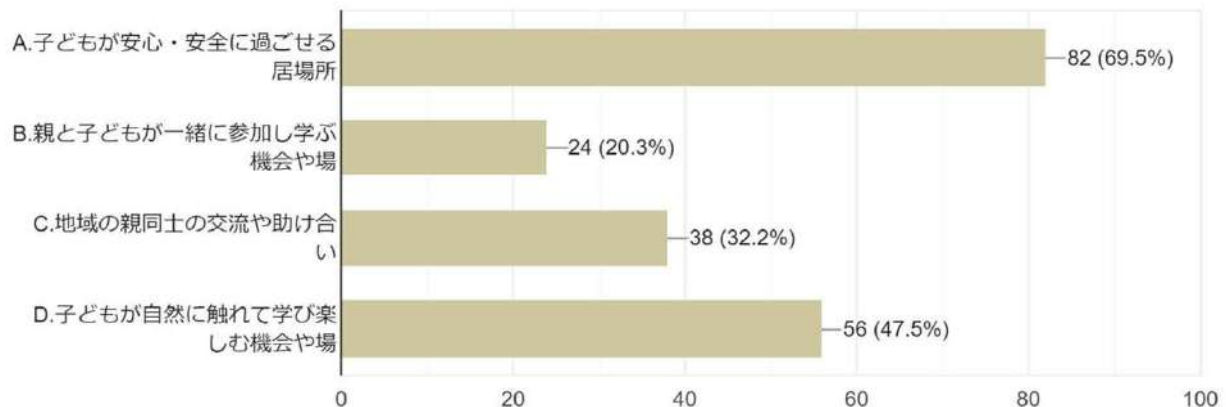
- ・渋川古式踊りの継承者不足
- ・渋川のお神輿や花踊りはほぼ男性ですが、女性は参加出来ないのでしょうか
- ・伊砂神社など歴史深いものもありますが、軽視されているように感じます

■Cを選択/コメント要旨

- ・高齢者が取り組みやすい気軽なスポーツをもっと提案してほしい。
- ・屋内の遊び場が少なく、公園の有効活用を検討してほしい。
- ・高齢者のスポーツ活動の場として、空き家を市が買い取り、災害時にも役立ててほしい
- ・参加率の低いイベントや役員のためのイベントを縮小してほしい
- ・公園の草むしりをシルバー人材センターに委託

(5)子ども・子育て 【2つまで】選択☑をつけてください

118 件の回答



(5)で特に「気になる」「不安」コメント(28名回答／コメント要旨)

■Aを選択／コメント要旨

- 子どもや一人暮らしの方の居場所(みんなの食堂など)が必要
- 自由に遊べる場所が不足しており、子どもたちの考える遊びができない
- 低学年児童が公園で遊ぶ際、付添が必要となり、ひとり親は家事や自分の時間が持てない
- スポーツと高齢者への予算の偏りが気になる 兵庫県明石市の取組みを参考にしてほしい
- 思いっきり遊べる場所が少なく、騒ぐと文句を言われること
- 放課後の校庭はクラブや地域住民より学童を優先的に利用すべき
- 公園の整備、防犯カメラの増設が必要
- 地域活動やスポーツのための場所の確保を希望。

■Cを選択／コメント要旨

- ・地域での公園で遊ぶ子どもがいないことに交流の少なさを感じる
- ・地域の子どもの交流がほとんどない
- ・子供と同世代の親御さんとの交流
- ・スマホでなく直接会える場所づくり
- ・仕事・パート等、経済的要素が優先されて機会が減少している
- ・父親間の交流の場
- ・独身なのでわからない

■Dを選択／コメント要旨

- ・田植え、収穫体験などあればいい
- ・都市化になり遊び場所がない
- ・公園でも遊びの規定が多く、騒音などの苦情がありどこで遊べいいのかと思う
- ・外で遊ぶ場所が少ない、自然も少ない
- ・情報

■Bを選択／コメント要旨

- ・月1回の親子サロン
- ・仕事・パート等、経済的要素が優先されて機会が減少している

問12 渋川まちづくりセンターや渋川学区まちづくり協議会の運営についてのご意見・ご提案など(42名回答／コメント要旨をテーマ別に分類)

■分野「地域・安全・コミュニティ」について

<ふれあいまつりについて>

・ふれあい祭りの出し物は、大人向けが多いようで子供たちが楽しめる内容が少ないと感じる。幼児向けのわなげは短時間で終わり、暗い場所で開催している。以前のような地域参加型のふれあいまつりのほうが活気があり、いいお祭りだった。まちづくりセンターの敷地では制約が多く、会場選定の改善を希望する。また、大行列ができるキッチンカーの運営方法も検討が必要。大路学区の祭りのように多様な出し物があり、地域全体が楽しめるイベントが理想。改善の余地がある。

<通学路の安全確保>

・通学路の安全確保について、まちづくり協議会が市や県議会に働きかけ、必要な場所へのガードレール設置を進めてほしい。
・小学生の登下校のため、日陰のない通学路に植樹や日除けの設置を検討し、異常な暑さから子どもや高齢者を守る対策を進めてほしい。
・通学の見守り活動を強化し、事故や事件を未然に防いでほしい。また、小学校やPTAが積極的に責任を持って見守りをしてほしい。

<コミュニティの活性化に関するアイデア・提案>

・渋川学区の住民が楽しめる場を作り、語学学習の場を設けると良い。
・活動を報酬制にして意義を高め、市民の積極的な参画を促すべき。無償で活動したい方には寄付を選択できる仕組みが望ましい。
・他学区のまちづくり協議会の取り組み情報を共有し、良い点を取り入れる。
・多くの人が参加できるイベントを実施してほしい。
・敬老資金を子どものいる家庭への補助として振り向けるなど、こどもへの投資が必要。
・イベント企画について、障害者を除く形で無料から有料への移行を今後必要。

<防災関連>

・高齢化が進む中、一人暮らしの高齢者への対応について、台風接近時などに心細さを感じる方への声掛け方法や具体的なマニュアルがあれば教えてほしい。
・渋川地区防災計画の周知徹底が不十分。
・南海トラフ地震など巨大地震への備えとして、近畿の活断層も考慮した訓練が必要。避難だけでなく、避難先での行動を具体的に明確化し、地域全体がその内容を共有できるようにしてほしい。

■分野「健康福祉」について

・草津市の「安心いきいきプラン第9期計画(高齢者福祉計画・介護保険福祉計画)」では、全ての市民が尊重され、安心して暮らせるまちづくりが掲げられています。2040年問題を踏まえると、高齢者が健康で生き生きと過ごせる居場所を作ることが重要であり、公的施設やまちづくり協議会がその役割を担うべきです。また、国や市の施策と整合性を図りながら運営することが望ましい。

■分野「子ども育成」について

- ・子どもたちが楽しみを見つけられる、豊かな考えを持って楽しめる街になるといい。
- ・小学校、まち協、自治会の役割分担が見えづらく、役割や横のつながりがわからない。
- ・若い親世代の意見を積極的に取り入れてほしい。

■分野「教育文化スポーツ」について

- ・コロナ前の地域学校を活用したイベントの再開を望む。
- ・共働き家庭が増える中、アラフォー世代が参加しやすいイベントを充実させてほしい。
(音楽や癒しのコンサート、体力づくりなど)

■町内会について

- ・加入率や行事参加の負担の不均衡を解消し、行政の支援と明確な方針が必要。
- ・知り合いがいないと活動への参加が難しいため、交流を促進する仕組みが必要。
- ・新規住民の交流参加が難しい現状を改善してほしい。
- ・もっと自由に楽しめる活動が増えることを期待する。
- ・女性の一人暮らしのため、地域との関わりをつくることに抵抗があることから、地域活動に参加できていないが、取り組んでいる方々にはとても感謝している。

■協議会運営について

<運営全般に関して>

- ・いつも取り組みありがとうございます。このような取組を応援しています。(他3件)
- ・各町内の意見を集約し、地域のまちづくりを進めてほしい。
- ・子どもから高齢者まで元気に暮らせる街づくりを目指してほしい。
- ・多様な人材の活用を。
- ・職員は地元の人を増やすと運営がしやすいのでは。
- ・町内会とまち協の関係性が不明確であり、明確な説明が必要。

<部会運営について>

- ・会議や部会の事業は、委員やまちづくり協議会の負担を最小限に抑えた運営が望ましい。
- ・住民が能動的にまちづくりに参加できるような施策の検討を。
- ・役員や委員の暗黙の了解的な参加が多すぎる。本当にやりたい人だけが取り組む形にした方がよいのでは。無駄な活動が多いと感じ、町内会に入りたがらない人も多いようだ。
- ・役員や運営メンバー、事務局に過度な負担がかからない形を検討すべき。部会員と協議会がざくばらんに話し合う場が必要。続けることが目的となっている事業の見直しや簡略化を。働き方改革の視点も取り入れてほしい。
- ・高齢化で人手が少ない状況で、役や会議の数が多すぎる。
- ・毎月の定例会議など、オンラインで行えるものを導入してほしい。
- ・役員会や委員会で決まったことが住民に伝わらないことが多く、情報発信の改善が必要。瓦版などを活用して報告を伝えると良いのでは。
- ・小さな子どもを抱えながら仕事をしており、出向くことが大きな負担だった。

<センター運営について>

- ・センターの利用予定が特定の団体の利用予定で占められている。状況を改善してほしい。
- ・住民が集まる場所、地域の情報を発信する公共機関として頑張っていただきたい。
- ・日曜日の開館を検討してほしい。
- ・センターと2階・3階と交流の促進。

■その他

- ・人の出入りが増える中、地域間のつながりを維持できる取り組みが必要。
 - ・駅周辺の整備を進め、徒歩や自転車が主体の街にしてほしい。
 - ・高齢者がセンターへアクセスしやすい仕組みを整備してほしい(例:臨時バスの運行)。
 - ・小学校の通学路の安全性確保。特定の地域が通れないとする対応に疑問を感じる。公平な対応を求める。
- (以上)